

**フレキシブル型モバイルマイクロホン**

**取扱説明書**

このたびは、(株)アドニス電機のモバイルマイクロホンFX-6をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

このFX-6は、警報音付無変調防止回路およびマイク出力調整機能を備えた、単一指向性高性能モバイルマイクロホンです。ご使用に際しましては、本機の性能を十分発揮させていただくためこの説明書をよくお読みいただき、未永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。なお、この取扱説明書は、保証書と共用になりますので、お読みになった後も大切に保管してください。

**★いずれも安全に関する内容ですので、必ず守ってください★**



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ⚠警告 当製品は車の運転の妨げにならない場所に取り付け、製品がはずれたり、コード類がハンドルに絡まったりしないようにしてください。
- ⚠警告 指定以外の電源電圧で使用しないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- ⚠警告 電源コードや接続コードを傷つけたりしないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- ⚠警告 改造、分解、修理はしないでください。火災、感電、故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店または、弊社にお申し付けくださいますようお願い申し上げます。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

- ⚠注意 弊社製以外のマイク変換コードを使用すると正しく動作しない場合がありますので、必ず弊社製を使用してください。弊社製以外の変換コードのご使用によるトラブル・故障等につきましては一切の責任を負いませんのでご了承ください。
- ⚠注意 コード類は無理に引っ張ったり巻き付けたりしないでください。ショート、故障の原因となります。プラグやジャックを抜き差しするときは、プラグやジャックを持って抜いてください。
- ⚠注意 マイクロホンのフレキシブルパイプは、無理に曲げないでください。けが、故障の原因となります。
- ⚠注意 製品は水に濡らしたり、水に濡れたりする場所への取り付けはしないでください。ショート、故障の原因となります。
- ⚠注意 当製品は緊急通信や非常通信用途には設計されておりませんのでご承知おきください。

**★ご注意とお願い★**

- マイクロホンには必ず風防を取り付けて使用してください。
- ご使用になるトランシーバーおよびアンテナの取付方法や場所、取扱電力等によっては回り込みを起こし、ご使用になれない場合がありますのでご了承ください。
- 直射日光のあたる場所や高温になる場所での使用および放置は、変形・変質を招き本製品に悪い影響を与えますので工夫して高温を避けるようにしてください。
- 性能改善のため、予告なく仕様およびデザイン等を変更する場合があります。

**★アフターサービスについて★**

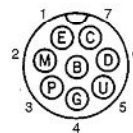
お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが万一運搬中の事故などに伴い、ご不審な箇所または破損などのトラブルがありましたら、お早めにお買い上げいただいた販売店、または弊社に保証書を添えてお申し付けくださいますようお願い申し上げます。

**●回り込み対策について**

ローパワーで送信すれば正常であるのに、ハイパワーで送信した場合に変調が異常になったりバリバリという音が混入したり、その他の雑音（マイクに直接入るエンジン音ではありません）が増すことがあります。その場合アンテナと同軸ケーブルの調整が悪く、定在波がマイクコードに乗ることが考えられます。従って、マイクコードの引き回し方を変えると良くなる場合があります。特に同軸ケーブルと平行にしないようにしてください。また、アンテナと無線機とのSWRをチェックしてみてください。

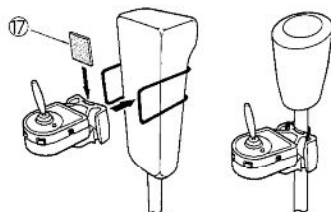
**●8ピンアドニス配列(1図)**

(⑥8P中継ジャック)



- ① E : アース(マイク信号用)……シールド
- ② M : マイク信号……黄
- ③ P : PTT(プレストーク)……赤
- ④ G : アース(PTT用)……紫もしくは青
- ⑤ U : UP(アップ)……緑
- ⑥ D : DOWN(ダウン)……白
- ⑦ C : U/D コモン……橙
- ⑧ B : DC給電(十極)……灰

**●⑦スイッチボックスの取付方法(2図)**



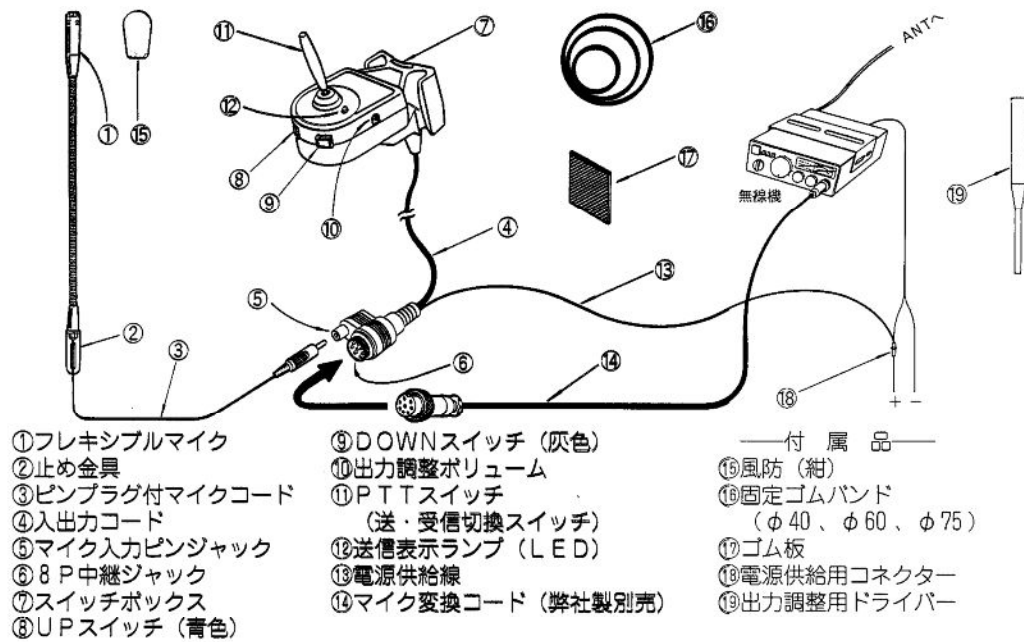
- 付属の⑩固定ゴムバンドでチェンジレバーとスイッチボックスとを、しっかりとめてください。
- 取付けが不安定な場合、付属の⑪ゴム板を間に入れてください。

**●⑬電源供給用コネクタの接続方法(3図)**



1. 無線機の電源供給用の⑭側とマイクの⑬電源供給線をコネクタの溝に沿わせて置きます。
2. そのままの状態電源を仮固定する。
3. プライヤーでロックするまで完全に押える。

## ●各部の説明(4図)



- |               |                   |                           |
|---------------|-------------------|---------------------------|
| ①フレキシブルマイク    | ④DOWNスイッチ (灰色)    | — 付属品 —                   |
| ②止め金具         | ⑩出力調整ボリューム        | ⑮風防 (紺)                   |
| ③ピンプラグ付マイクコード | ⑪PTTスイッチ          | ⑯固定ゴムバンド<br>(φ40、φ60、φ75) |
| ④入出力コード       | (送・受信切換スイッチ)      | ⑰ゴム板                      |
| ⑤マイク入力ピンジャック  | ⑫送信表示ランプ (LED)    | ⑱電源供給用コネクター               |
| ⑥8 P中継ジャック    | ⑬電源供給線            | ⑲出力調整用ドライバー               |
| ⑦スイッチボックス     | ⑭マイク変換コード (弊社製別売) |                           |
| ⑧UPスイッチ (青色)  |                   |                           |

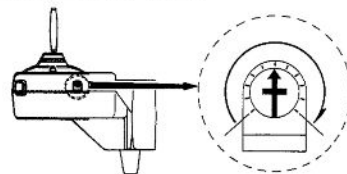
## ●取付方法及び接続方法

- ①フレキシブルマイクの②止め金具を、サンバイザーと共締めするか、適当な場所へ工夫して取付けてください。(⑮風防を①フレキシブルマイクに付けてご使用ください。)
  - ⑦スイッチボックスは、付属の⑯固定ゴムバンドでチェンジレバーに取付けてください。不安定な場合は、付属の⑰ゴム板を挟み固定してください。(2図参照)
  - ⑦スイッチボックスから出ている④入出力コードの⑤マイク入力ピンジャックに、③ピンプラグ付マイクコードを差し込んでください。
  - ご使用の無線機に適合した⑭マイク変換コード(弊社製別売)を、④入出力コードの⑥8 P中継ジャックと無線機の間に接続してください。(マイク変換コードには方向性がありますのでご確認の上、間違わないように接続してください。)
  - ⑬電源供給線は、付属の⑱電源供給用コネクターで無線機の電源の⊕側に接続してください。(4図参照)
- ※無線機のマイクロホン端子に、電源(DC 5V~9V、50mA)を供給している無線機にご使用の場合は、電源供給型マイク変換コード“Dシリーズ”(弊社製別売)で接続すると、⑬電源供給線の配線が不要になります。  
(詳しくは、弊社製マイク変換コードおよびご使用の無線機の取扱説明書をお読みください。)

## ●ご使用方法

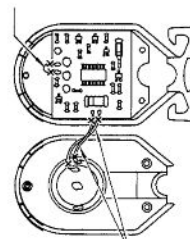
- ⑪PTTスイッチをT側に倒すと送信状態になり、⑫送信表示ランプが点灯し送信状態に切り変わったことを知らせます。また、R側に倒すと受信状態になり、⑫送信表示ランプは消灯します。
- ⑧UPスイッチ及び④DOWNスイッチは、無線機付属のマイクロホンのUP/DOWNスイッチと同じ動作をします。(詳しくは、無線機の取扱説明書をお読みください。)
- ①マイク部の先端から口元までの距離が10cm以内になるようにしてご使用してください。
- 出力レベルは、適正なレベルに調整されていますが、ご使用の無線機により多少異なりますので、変調が深すぎたりする場合には、下記の要領にて調整してください。⑩出力調整ボリュームを右(時計回り)に回すと出力は増加し、左(反時計回り)に回すと減少します。ローカル局にモニターしてもらいながら、5図に表示してある回転範囲内で付属の⑲出力調整用ドライバーで静かに回して調整してください。(左右に100度づつしか回りません。) 回し過ぎますと、破損する恐れがありますので十分注意してください。なお、5図の位置でほぼ中央になります。

## ●出力の調整方法(5図)



## ●無変調防止回路の解除について(6図)

本体裏面のネジを3本外し、中の基板を下記のように変更してください。  
無変調防止回路の解除はジャンパーリードを切断してください。



警告音の解除は黄色のリード線を切断してください。

## ●無変調防止回路の解除について

- PTTスイッチが不用意に作動した場合や通常の交信においても、送信状態が約2分30秒間続けばアラーム回路が作動し警告音が約30秒間鳴った後に自動的に受信状態に戻ります。ただしアラームは鳴り続け、⑫送信表示ランプは点灯したままです。無変調防止回路の解除方法は6図を参照してください。